

## 都市景観の目印に

皆さんは左の写真のプレートを見たことがありますか？これは、市が「都市景観重要建築物」として指定した建物に掲示されているものです。



市では、これまで市内の都市景観を形成する上で、重要な価値があると認められる建築物を「都市景観重要建築物」として、76件指定しました(平成26年6月末現在)。指定にあたっては、文化財

として指定されているものや伝統的建造物郡保存地区内のもを除き、市内に点在する建築物を対象に進めてきました。

平成26年7月の新たな川越市都市景観条例施行に伴い、名称を変更し、「景観重要建造物」として指定を始めました。現在までに6件の指定を行っています。

市内には、長い時を重ねた、川越ならではのさまざまな建築物等がたくさん残っています。壊してしまえば二度と取り戻せないこれらの建築物は、いつまでも残しておきたい貴重な資産です。

景観に関するパンフレットを都市景観課(本庁舎5階)で配布しています(パンフレットの内容は市ホームページでも確認できます)。プレートを目印にまち歩きに出掛けてみてはいかがですか。



パンフレット

## イチゴ



農政課 224-5939

甘くて、見た目もかわいらしいイチゴは、子どもから大人まで

人気の果物。イチゴの旬は春ですが、ハウス栽培では12月ごろから食べることができます。

ハウス栽培をしている筋野弘樹さん(松郷)は、作業効率を考え、イチゴを約1mの台の上で栽培する高設栽培を行っています。また、水や肥料、土の温度を自動管理する省力化を進める一方で、つぼみの数の管理や収穫作業など、熟練の技が必要なものは手作業で行い、おいしいイチゴを作るため努力しています。「どのイチゴにも、それぞれに一番おいしい瞬間があるんです」と話す筋野

さん。その瞬間を味わってもらうため、「どのイチゴをいつ摘み取るか」を大切にしているそうです。



おいしい食べ方を伺うと、「十分に熟したイチゴは傷つきやすく、洗うと味や栄養分が逃げてしまいます。あまり洗わず新鮮なうちに食べるのがおすすめです」とのこと。筋野さんのイチゴは、伊佐沼農産物直売所、あぐれっしゅ川越などで購入できるほか、イチゴ狩りでも味わうことができます。

この時期に市内の直売所などで購入できる主な川越産野菜

ハウレンソウ、ニンジン、コマツナ、ブロッコリー、ハクサイ、サトイモ、ダイコン、長ネギ、キャベツ



17日に式典と山車曳きが行われました。当日は、多くの方が訪れ、ユネスコ登録後、初の山車曳きや曳っかわせの迫力に見入っていました。

昨年、川越氷川祭の山車行事がユネスコ無形文化遺産に登録され、川越に新たな歴史のページが加わりました。これを記念し、12月

「富士山」です。平成27年7月から始まった耐震化工事も無事終了。新しくふき替えた屋根の銅板は、赤銅色です。川越に「時」を告げながら、これから長い時間をかけて緑青色に変化していきます。

編集後記  
どんぶり